

【第1号議案】

2022年度事業報告

2022年度の諸事業は、2022年3月の理事会で承認された事業計画を順次実施した。

■ 4つの事業について以下にまとめる。

1)【芸術活動助成】(公益財団法人 朝日新聞文化財団 定款第4条1の事業)

2022年度の芸術活動助成事業は、2022年2月1日および10日に選考委員会を開き、助成対象を決めた。応募は381件(音楽204件、美術177件)あり、前年度の266件から115件増加した。前年度からの延期事業を加え、155件(音楽87件、美術68件)に対して1975万円を助成総額とした。ところが今年度もコロナ禍で事業の中止、延期が余儀なくされ、音楽分野では中止10件150万円、延期1件10万円、美術分野では中止5件70万円、延期1件10万円が生じた。これに21年度事業からの返金2件20万円を加え、結果、138件に1735万円を助成し、260万円を2022コロナ感染症対策積立金に計上し、2023年度の事業への助成に充てる。助成した事業(助成先・助成対象)は別紙資料①②の通り。

2)【文化財保護助成】(公益財団法人 朝日新聞文化財団 定款第4条2の事業)

2021年9月11日に開かれた選考委員会で、2022年度助成実施対象事業として応募があった34件の中から、京都・清凉寺の重要文化財「釈迦堂縁起」絵巻などの保存・修復など24件に対して総額4611万円の助成を決定し、別紙③の通り助成した。

3)【朝日賞の贈呈】(公益財団法人 朝日新聞文化財団 定款第4条3の事業)

2021年度の朝日賞は、下記の4氏に贈呈された。

◇石内 都(いしうち・みやこ 75歳) 写真家

「記憶と時間に向きあい続ける写真表現の達成」

◇柄谷 行人(からたに・こうじん 81歳) 哲学者・批評家

「鋭敏な文芸批評と独自の思想体系の国際的広がり」

◇藤田 誠(ふじた・まこと 65歳) 東京大学卓越教授(科学者)

「自己組織化によるナノ空間物質の創出とその応用」

◇間野 博行(まの・ひろゆき 63歳) 国立がん研究センター研究所長(医学者)

「肺がんの融合遺伝子の発見とがんゲノム医療の先導」

受賞者の業績と横顔は2023年1月1日の朝日新聞に掲載された。

1月27日に帝国ホテルにて、贈呈式、祝賀パーティーを開催し、4氏に正賞のブロンズ像(彫刻家で1988年度朝日賞受賞者の佐藤忠良氏の作品「陽」と副賞500万円(1件につき)が贈られ、朝日新聞デジタルを通じてオンラインで受賞の喜びが伝えられた。

4)【大阪国際フェスティバル】(公益財団法人朝日新聞文化財団 定款第4条4の事業)

毎年、大阪・中之島のフェスティバルホールで開催している「大阪国際フェスティバル」は、以下の3公演を予定通り実施した。

・4月16日「4オケの4大シンフォニー2022」

・6月26日大阪交響楽団・関西二期会「オペラ 泥棒かささぎ(レクチャー・コンサート)」

・8月9日大阪交響楽団・関西二期会「オペラ 泥棒かささぎ(演奏会形式)」

・9月17日大阪フィルハーモニー交響楽団・小曾根真・鈴木優人「ひかれあうジャズと古典—2台ピアノの午後」

【第1号議案】

事業支出6012万円(21年度5100万円)に対し、チケット販売や協賛金などの収入は6604万円(4395万円)で、591万円の黒字(同704万円の赤字)。コロナの影響を大きく受けた21年度から、事業黒字に回復した。

コロナ禍の終息が見えないなかで、招聘リスクの高い来日公演は盛り込まず、国内もの3公演に絞り込み、いずれも黒字を達成した。定番となった4オケとともに、秋の小曾根真(ジャズ)×鈴木優人(古典)という異色公演の人气が高かった。オペラ公演は、コロナ禍により21年度に実施できず1年2か月延期して実現したため、平日の午後開催という悪条件となり券売は苦戦したが、支出の抑制などで黒字を達成した。

■ 定型事項について以下にまとめる。

① 経営環境や事業内容の変化の有無

財団の設立母体である新聞社からの寄付金は、財団運営の基礎だが、23年度は5300万円にとどまる。22～21年度の6300万円からは1000万円減。それ以前は20年度7800万円、19年度8000万円、18年度8200万円と安定していたが、新聞社の経営不振の影響を受け、この3年間で減額要請が強まって、公益4事業を従来の規模で実施するには圧倒的に不足している。ここ数年はたまたま、保有するテレビ朝日株式の配当金が上振れしたことや、経費節減努力、助成規模の縮小、コロナ禍による助成事業の中止(助成金の返還や繰り延べ)などで凌いできたが、持続的な事業実施の基盤は不安定化している。

4事業のいずれかを休止するなど抜本的な支出削減を行い、持続可能な執行体制を維持するため、歴史的に各事業の展開に深くかかわり、寄付金を拠出している新聞社と今後の事業の在り方について協議を始めている。

② 訴訟案件、偶発債務等は特になし。

③ 法令遵守や不正リスク等については特になし。

④ ゴーイングコンサーン(事業継続性)について

*①にも関わるが、基本財産10億円が超低金利下でほとんど果実を生まない事態が長期化している。このため、安全性を第一義として元本保証の定期預金のみ限定していた資産運用について、経理規則を改定して資金運用規定を新設し、21年度から金銭信託、公社債、株式、投資信託等による運用を可能にした。21年度は名古屋高速道路債券(愛知県・名古屋市折半の市場公募債)額面1億円、22年度にゆうちょ銀行の株式売り出しで8万株(22年度末時価で8664万円)を購入し、420万円程度の運用益を確保した。今後、基本財産の半分まで運用を拡大し、数年内に運用益1000万円程度をめざしたい。

*文化財保護助成の原資となるテレビ朝日HD株式の2022年度の配当予想は2年連続となる年50円で配当収入は計1億1485万円となる見込み(22年度の10円期末増配予定を3/16に発表)。19、20年度は40円(総額9188万円)と、この2年間はコロナ禍による在宅機会の増加がかえってテレビ局経営に追い風になった形で好調だった。ただ、2月に策定した当財団23年度当初予算では、今後景気減速も予想される経済情勢の変化に左右されないよう、期末配当予想の20円、4594万円のみ計上した。

⑤ 後発事象の有無については特になし。

⑥ 重要な通例にない取引の有無については特になし。

■ 管理運営関係等について以下にまとめる。

◇ 諸会議の開催

【第1号議案】

- ① 第1回理事会(2022年5月9日) ※決算関連・書面
- ② 第2回理事会(2022年6月1日) ※報告事項
- ③ 第1回定時評議員会(2022年6月1日) ※決算関連
- ④ 第3回理事会(2022年6月15日) ※株主議決権関連・書面
- ⑤ 第4回理事会(2023年3月3日) ※事業計画・予算関連
- ⑥ 2022年度・文化財保護助成選考委員会(2022年9月11日)
- ⑦ 2022年度・朝日賞選考委員会(2022年9月27日～12月1日)
- ⑧ 2022年度・芸術活動助成選考委員会(2023年1月31日、2月7日)

◇諸会議の結果

- ① 第1回理事会
 - *開催方法:書面表決
 - *理事会の決議があったものとみなされた日:2022年5月9日
 - *決議方式:定款第42条に基づく書面決議で理事全員が賛成、監事2人も同意
 - *決議事項:「事業報告、収支決算」について承認した。
- ② 第2回理事会
 - *開催方法:朝日新聞東京本社レセプションルームに於ける会議
 - *理事会の決議があったものとみなされた日:2022年6月1日
 - *決議方式:定款第42条に基づく書面決議で理事全員が賛成、監事2人も同意
 - *報告事項:「理事長、常務理事の職務状況報告」についての報告が了承された。
- ③ 第1回定時評議員会
 - *開催方法:朝日新聞東京本社レセプションルームに於ける会議
 - *決議方式:定款第25条に基づく書面決議で評議員全員が賛成
 - *決議事項:「事業報告、収支決算、議事録署名人の選任」について全員一致で承認した
- ④ 第3回理事会
 - *開催方法:書面表決
 - *理事会の決議があったものとみなされた日:2022年6月15日
 - *決議方式:定款第42条に基づく書面決議で理事全員が賛成、監事2人も同意
 - *報告事項:「朝日新聞株主総会にかかるすべての事案への賛成とテレ朝FD株主総会にかかる自己株取得反対とそれ以外の賛成」について承認した。
- ⑤ 第4回理事会
 - *開催方法:朝日新聞東京本社レセプションルームに於ける会議
 - *理事会の決議があったものとみなされた日:2023年3月3日
 - *決議方式:定款第42条に基づく電磁的な決議で理事全員が賛成、監事2人も同意
 - *決議事項:「23年度事業計画、収支予算、特別費用積立計画、資金運用計画、全選考委員の選任、23年度定時評議員会招集、理事長・常務理事の職務状況報告、23年度第1回理事会の書面決議、第2回理事会の開催」について承認した。
- ⑥ 2022年度・文化財保護助成選考委員会
 - *日時:2022年9月11日
 - *場所:東京都千代田区丸の内の朝日新聞文化財団事務所
 - *出席者:選考委員7名中7人(有賀祥隆、武田佐知子、根立研介、広瀬和雄、本田光子、高妻洋成、中村俊介)
 - *選考結果:2023年度実施の対象事業として応募があった40件の中から継続複数年事

【第1号議案】

業を含め、人吉市指定有形文化財「矢黒神社災害復旧事業」(熊本県)など33件に計5596万円の助成を決定した。

⑦ 2022年度・朝日賞選考委員会

*日時:2022年12月1日

*場所:東京都中央区築地の朝日新聞東京本社本館15階

*出席者:選考委員9名(青柳正規、伊東豊雄、梶田隆章、榊裕之、田中啓二、野田秀樹、上野千鶴子、角田克、中村史郎)

⑧ 2022年度・芸術活動助成選考委員会

A) 音楽分野

*日時:2023年1月31日

*場所:東京都千代田区丸の内朝日新聞文化財団会議室

*出席者:沼尻竜典、白石美雪、丸山玄則(以下、書面出席)、
酒井忠康、建畠哲、大西若人、以上6名(選考委員総数6名)

*選考結果:2023年度実施の対象事業として応募があった177件の中から、「ニッセイオペラ2023・マクベス」((公財)ニッセイ文化振興財団)など85件に総額1070万円の助成を決めた。

B) 美術分野

*日時:2023年2月7日

*場所:東京都千代田区丸の内朝日新聞文化財団事務所

*出席者:酒井忠康、建畠哲、大西若人、(以下、書面出席)、
沼尻竜典、白石美雪、丸山玄則、以上6名(選考委員総数6名)

*選考結果:2022年度実施の対象事業として応募115件の中から、「中之条ビエンナーレ2023」(中之条ビエンナーレ実行委員会)など53件に総額700万円の助成を決めた。

以上